

Libro de Alexandre (IV)

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

The Libro de Alexandre is a great epic poem which consists of 10700 lines and was supposedly written in the first third of the thirteenth century. This poem is not an ordinary biography of Alexander the Great, because the story is interrupted by many, diverse and various episodes like that of the Troyan war which took place about 1200 years B.C. according to the historians, and that of Old Testament. Alexander the Great is a personage of the fourth century B.C. and this poem is written in the thirteenth century of AD. So in this work by unknown author, perhaps a cleric, mixture of ages is seen everywhere and that is the most remarkable characteristic of this epic poem.

This work is written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way), style of which has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This time translation is made from the strophe 594 to the 802.

アレクサンダーの書Ⅳ

太田 強 正 訳

アレクサンドレの書は13世紀の最初の約30年の間に書かれたと推測される10700行からなる大叙事詩である。

これは33歳で早世したアレクサンダー大王の伝記であるが、普通の伝記とは異なり、大王が活躍した紀元前3世紀、トロヤ戦争が起こったと言われる紀元前約1200年、そしてこの叙事詩が書かれた紀元後13世紀の話が混然として描かれている。また旧約聖書中の記事も混入されている。

作者は無名の聖職者であろうと言われているが、Gautier de ChatillonのAlexandreisを底本として、その他の伝記、伝承を基にこの叙事詩を書いたようである。

作品はメステル・デ・クレレシーア（mester de clerecía）と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人（juglares）によるメステル・デ・フグラリーア（mester de juglaría）と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア（cuaderna vía）と呼ばれる1行14音節同音韻4行詩である。

今回は第594連から第802連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

人名・地名などの固有名詞は原則、原文に従いスペイン語読みとし、日本で普通用いられているものについてはそれに従った。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

594 翌朝夜明けに

エクトルは総会を布告することを命じました
男たちは全員非常に大きな輪を作りました
—武器はとにかく離しませんでしたが—

595 エクトルは言いました：《男たちよ、私は道理だと思う

エレナを返せば彼らは退却して
私たちはいつまでもこの苦しみの中にいることはないだろうと
なぜならことはますます悪化しているので》

596 《私たちは皆それが—と人々は言いました—良いと思います

あなたにお任せします、お望みのままに喜んで》
このようにしてギリシャ人たちに伝言を送りました
トロヤの民は納得していました

597 ギリシャ人たちは絶対できないことだ返事をしてきました

協定を結ぶ時ではないと
もし伝令たちが罰せられる事になれば
イデウス⁴⁸⁾ がとても困ったことになるだろうと

598 ギリシャ人たちはこの事すべてに悲嘆に暮れていました

立派な者はごく少数になっていましたから
しかし皆誓いました、やる気満々で
復讐するまでそこから立ち去らないと

599 伝令は伝言をもって帰り
人々にわずかししか得る物がなかったと言いました
するとエクトルが言いました：《私は侮辱されたと思っている
しかし思うに、私は正当な事を言ったのだ

600 彼らのこけおどしで私は眠れなくなることはないだろう
彼らが私に及ぼす災いは私はしっかり耐え忍ぼうと思う
そしてもし神が私をもう少し生かしてくださるなら
彼らはこの空いばかりから苦しみを受けることになるだろう》

601 翌日エクトルは全員に武器を取り
戦場を占拠し、彼らに攻撃を仕掛けるように命じました
事がすべてうまくいかなくなってから
彼らはゆっくり眠っていませんでした

602 エクトルがそう命じると、彼らは従い
太陽が昇ると戦場いました
ギリシャ人の軍勢がこれを見ると
武器を取るのに間を置きませんでした

603 トロヤ人たちは怒り狂っていたので
指示されたように攻撃をしかけようとししました

エクトルの前には首を落とされた多くの者が横たわっていました
ギリシャ人たちはたちまち敗れ去りました

604 勇者ディオメデスはあらゆる場所で毅然としていましたが
これを見ると怒りと非常な苦痛を感じました
そして、言われてるように、アヘオを殺そうとしました
ディオメデスはギリシャ人たちを励まして戻らせました

605 戦闘はかつてないほど大きなものでした
しかしギリシャ人たちはさらに悲惨でした
エクトルはすべての者の上に立つ君主のように見え
すざましく大きな恐怖を撒き散らしました

606 ギリシャ人たちは堅固な柵を築いていて
それは危険なときは護ってくるものでした
トロヤ人たちは今度はそれを打ち破ろうとしていました
トロヤ人たちは彼らをいやいやながら内に閉じ込めました

607 トロヤ人たちはギリシャ人をおとなしくさせ、息もつかせません
でした
誰も戦闘に出ようとはしませんでした
ギリシャ全軍が身動きできないようにされていて
彼らは自分たちをこのようにしておくアキレスを呪いました

608 ギリシャの兵士たちは追い詰められ
トロヤ人たちは外側で猛り狂っていて

男たちを殺し、甚大な損害を与えました
ギリシャ人たちは協定を結ばなかったのは誤りだったと思いま
した

609 包囲はこういうすべてがあって長い間続いていました
始まってから優に5年経っていました
しかしまだこれ以上の事は起こっていませんでした
定められた終わりがまだ来ていなかったので

610 アキレスは、そうこうするうち、怒っていたので
—受けた侮辱を忘れていなかったのです—
愛人と山に隠れていて
これらすべての知らせに心を動かしませんでした

611 ギリシャ人たちは書状や伝令を送りました
次から次へ、そしてさらに送ったのです
ギリシャ人たちは彼に言いました：《もしお前が助けてくれな
ければ、すべての兵士をもってしてもトロヤは落ちないだろう、占
い師が言うように

612 ある者たちは死に、他の者たちは疲労している
トロヤの者たちは私たちをあまりに多く倒し
私たちを残酷に町から追い出した
彼らと戦うには、私たちはただもう勇気がない

613 お前が私たちを助けに来る時だろう

私たちが皆、いまいますが、ここでなすべき事があるだろうか
ら

お前の同胞がこんな大きな損害を受けるままにしないでくれ
この戦いはお前によって勝てるのだから》

- 614 アキレスは書状を見てとても喜びました
ギリシャ人たちが自分の素晴らしさを認めているのが嬉しかった
のです
すぐにその隠遁所から出てきました
自分の騎士としての価値を完璧にするために
- 615 ギリシャ人たちは皆アキレスに守られ
勇気を出し、より勇敢になりました
この逆風にトロヤ人たちは打たれ
肩を落として退却して行きました
- 616 死を呼ぶ戦士、善人ディオメデスは
断固としていて、判断力があり、忠実な助言者ですが
眠くなって、最初の夢の中で
たった一人である事をしようと考えました
- 617 正確な情報を得ようと考えました
彼らと対峙しているトロヤ軍のを
それをウリクセスと話すと彼は賛同し
彼らは二人だけで出発しました

- 618 トロヤ軍の隊長はデロンという名で
物知りで、ずる賢く、頑丈な心の持つ主でした
彼もまた盗人のように一人で出発していました
ギリシャ人たちが何をし何をしていないかを知るために
- 619 ほとんど道半ばで
下りようとしていた坂の終わる所でした
ギリシャ人たちが彼を最初に見たのは
双方はそれぞれ身を隠そうとしました
- 620 彼らはデロンが通るか通らないか迷っているうちに捕まえました
デロンは彼らから逃れることができませんでした、—そんなにした
やすいことではなかったのです—
ギリシャ人たちは彼からトロヤ軍のすべてを知りました
しかし彼らは結局デロンを放そうとしませんでした
- 621 真実をすべて明らかにした後で
デロンは彼らに放してくれるよう頼みましたが、全く無駄でした
直ちに頭が肩から切り落とされました
彼がそのような待ち伏せを絶対漏らさないように
- 622 彼らは情報を得ましたが、戻ろうとはしませんでした
敵軍にたどり着くことができるまでは
彼らはレス⁴⁹⁾の天幕に入ることにしました
犬も人も彼らを嗅ぎつけることができませんでした

- 623 まず直ちに彼の首を落とし
そしてすぐにディオメデスがそれを鞍袋の中に入れました
彼らは馬を二頭、身の軽いのを二頭手に入れました
それらはブシファル⁵⁰⁾を除いては並ぶものがいませんでした
- 624 彼らは素晴らしい戦利品とすごい分捕り品を持って帰りました
神はこのことで彼らに恩恵と贈り物を与えました
ギリシャ人たちには全フランスを勝ち取る⁵¹⁾よりも喜びでした
しかし成し得た者たちは自慢しませんでした
- 625 彼らがどのように出て行ったのか話が伝わると
到着するまで人々は非常な恐怖に駆られました
彼らは大喜びで迎えられました
ネストルは言いました：《今やトロヤ人は征服された》
- 626 このことについてアキレスは言いました：《お前たちは驚いてはいけない
ウリクセスもディオメデスもそのくらいのことはする
お前たちが見ているこの男はもっと大きいことをしたのだから
私を（修道院の）壁の中から連れ出した時に》
- 627 エクトルとトロヤの民は打ちひしがれていました
彼らはアキレスがギリシャ人たちを奮い立たせたと思いました
気持ちを抑えていましたが、落胆していました
彼らは言いました：《この男は我々の罪の故に生まれたのだ》

- 628 翌日ラッパが響き
双方で戦列が整えられ
戦いがまた始まり、互いに攻撃し合いました
血で（川の）水が皆固まりました
- 629 アガメノン王はトロヤ人たちに攻撃を加え
まず二人の兄弟を倒しました
両者とも勇敢ですばらしい戦士でした
そこには他に大勢いましたが、皆いところ士でした
- 630 すでにギリシャ人たちは戦果をあげていました
というのはトロヤ人たちがひどく弱っていったからです
ギリシャ人たちは彼らに少しずつ借りを返していったのです
ビーナスは頬に手を当てて悲しんでいました
- 631 エクトルと兄弟がこの最中に駆けつけました
盾を腕に通し、槍を手に
彼らの前にいる者は夏を見ることができませんでした
彼らは多くの魂を地獄に送りました
- 632 彼らはギリシャ人たちを余儀なく退却させ
無理やり砦に逃げ込ませました
侍者は司祭をより良く助けません
弟のパリスがエクトル助けるよりは
- 633 ギリシャ人たちは激しい攻撃を受けました

門は破られ、木々は焼かれました
そうでないと運命が裏切られることになり
彼らは悪い時に故郷を出たことになってしまいます

634 昼も夜もギリシャ人たちは休息できず
船に逃げ込むことを余儀なくされました
エクトルが戦いでギリシャ人たちをこんなに苦しめたので
アヤスが、言われているように、彼を倒すことになったのです

635 しかしその負傷から、エクトルはさらに用心深くなりました
さらに決然と戦い、さらに的確に攻撃を加えました
たまたま傷つけた無防備の者を
接ぎ木のようにたやすく運びました

636 パトロクロいう名のアキレスの副官が
彼の身内が非常に苦戦しているのを見た時
本当に苦しんでいるので心を痛め
彼らをこんなにひどく導いた運命を呪いました

637 恐るべき主人の武具を身につけ
トロヤ人たちの前に出て行き、彼らの周りを回りました
彼が近づいてきた時、トロヤ人たちは武器を見て
言いました：《この悪魔は我々の不幸を探しに来た》

638 大胆なエクトルはすぐに彼のところに行って
言いました、《若者よ、戦いたいなら、私に向かって来なさい⁵²⁾

エクトルをお望みなら、それは私だと知るように
戦場だけが両者にとって審判者であらんことを》

- 639 パトロクロはエクトルに恐れを抱かせるために
彼に顔を向けることも答えようとしませんでした
《本当に一とエクトルは言いました—こんなことはあってはなら
ない
このままでは終わらないのだから》
- 640 エクトルは槍を構え、パトロクロを攻撃しました
しかしパトロクロは良く攻撃をかわすことができました
エクトルは穂先で正確に彼を捉えることができませんでした
そうこうしているうちにパトリクロは逃げました
- 641 パトロクロは戦っていて知りました
もしもう一度エクトルが自分に向かってきたら
鎧も薄いチュニカほどにしか役に立たないだろうと
パトロクロは逃げようとしたましたが、無駄でした
- 642 しかし恐怖と苦痛で気落ちしていましたが
パトロクロは彼と戦うために攻撃しました
エクトルは彼に息をつかせず、攻撃で負傷させようとした
パトロクロは待ち受け、戦いが再び始まりました
- 643 彼らは日がな戦いましたが、お互い打ち負かすことはできません
でした

お互いに傷つけることもできませんでした
しかしエクトルは身を危険にさらすことを逡巡していました
さもなければ彼に毒を飲ませていたでしょう

- 644 彼は魔法をかけられていると人々が言っていたのを思い出しました
た

鉄の武器ではどうしても彼に傷を負わせることはできないと
エクトルは全速力で彼に向かって行きました
頭のとっぺんに大打撃を加えるために

- 645 パトロクロにはエクトルのすべての攻撃は効き目ありませんでした
た

エクトルは彼が分かり、彼を倒すことになりました
好むと好まざるとにかかわらず、パトロクロは報いを受けなければなりませんでした
トロヤ人エクトルは彼の武器を持ち去りました

- 646 アキレスとギリシャ人たちは皆沈んでいました
すでにすっかり運に見放されていたのですから
エクトルとトロヤ人たちは大喜びし
かつてないほど満足しました

- 647 アキレスはパトロクロのためにひどく悲しみました
あたかも自分の父か祖父のように
涙の川が地を流れました
人々はエクトルは悪いぶどうの木を植えたものだと言いました

- 648 アキレスは自分の髪をひっぱり、ほほを掻きむしり
両手の拳で頬骨を叩きました
ギリシャ人たちは顔に悲しみを表し
マントを締め合わせ、頭巾をほどきました
- 649 アキレスは手で自分の頭を叩いていました
叫びながら：《相棒よ、友で兄弟よ、
もし私が何日か健康で長らえたとしたら
トロヤ人がお前にしたことを、そいつにしてやろう》
- 650 皆はパトロクロに儀礼を尽くしました
高価な香草のバルサム剤を体に塗り
埋葬には大金がつぎ込まれました
人々はアキレスを喜ばせ満足させようとしたのです
- 651 遺体は盛大な葬儀で葬られました
ギリシャの王たちに嘆かれ敬われて
七日間行われ、喪は終わりました
こうしているうちに墓は細工を施されました
- 652 嘆きと喪は終わりましたが
アキレスは悲しみを忘れていませんでした
腕の良い親方に新しい武器を作らせ
復讐するまで決して熟睡できませんでした
- 653 手短にあなたたちに説明したい

アキレスが作るように命じた数々の武器は
もしあなたがすべてを順に話そうと思うなら
広い場所を取る本になるでしょう

- 654 それをゆっくり調べたい人は
そこに海にいる魚をすべて
出て行く船と戻ってくる船
沈んでいく船と到着する船を見るでしょう
- 655 そこには人のまだ住んでいない土地と住んでいる土地
山と川、城壁に囲まれた町
邪悪な人々の作った塔⁵³⁾
まだ馴らされていない、そして馴らされた鳥と獣がありました
- 656 そこでは主な風は反対方向に吹いていて
各々が時々で吹きます
そこでは雷とひどい稲妻が生まれます
ちょうど年の主な四つの季節のように
- 657 風と霜の冬が
花と心地よい夜明けの春が
大きな太陽と実った穀物の夏が
ぶどうの収穫とリンゴ酒を作る秋がありました
- 658 そこには正確に描かれた黄道十二宮がありました
お互いに等分に彫り分けられており

そして七つの惑星とその特性

どれが激怒しており、どれが満足しているのかも表されていました

659 その盾を見た人間はバカでも

非常に博学な良き学者にならない者はいないでしょう

それを作った名人はとても心を込めて作ったので

武器に大きい物も小さい物も描きました

660 必要ではなかったけれども、魅了されていたので

アキレスは溶かした鉄で作った鎧を身につけました

それは丈夫な繊維で頑丈に編まれていて、二重の鎖頭巾がついたもので

エクトルの棍棒を心配しなくてよかったでしょう

661 脛を護るために鎖かたびらの防具をつけ

それをしっかりした革ひもで結ばせました

そして戦闘用の拍車を身につけました

道を空けるために追跡の際には

662 彼は頑丈なきれいに細工を施した兜をかぶせられました

それは金銀を積んでも買えないでしょう

非常な名人技で留められ組み立てられた物でした

彼は怒っていたので、悪魔のように見えました

663 この後で彼は剣を身につけました

それは十回作り直され、十回壊された物でした
それを作った者は、仕上げた時に
こんなに入念に仕上げられた物は見たことがないと言いました

- 664 アキレスは武器を身につけるとすぐ馬にまたがりました
人々が盗んできた馬の一頭に
それが良く調教されているか見るために試して見ました
しかしその時までそんなに仕込まれていませんでした
- 665 彼はあなたたちが話すのを聞いたことがある盾に腕を通し
槍を構え、話し始めました
《私は思うのだが、もし運命が裏切ろうとしないなら
エクトルは今回は逃げられないと》
- 666 かれは良き騎士として槍を首のところでまっすぐに構え
小道を逸れて少しずつ進んで行きました
丘にいる見張りが彼を見ると
すぐに伝令を軍に送りました
- 667 知れせがエクトルに届く前に
恐怖が警鐘より先に届きました
先に不運が皆を襲っていました
トロヤ人の間に狂乱が起きました
- 668 アキレスが平原に現れると
人々はその颯爽とした動作ですぐ彼だと分かりました

そこでエクトルとトロヤ人たちは動揺しました
籬がオオタカの気配を感じた時にするように

669 アキレスが彼らを見ると、軍旗を掲げました
エクトルがそれを見て心が挫けました
しかしすぐに別の言葉を吐きました
彼をスズメほどにも思っていないと言いました

670 そこに自分を試そうとする騎士たちがいて
馬上槍試合を挑もうとアキレスのところに出てきました
しかしアキレスは彼らを負傷させ、退却させ
皆彼の手で死ぬことになりました

671 エクトルもトロヤ人たちもアキレスに耐えられませんでした
彼らはやむなく戦場を後にしなければなりませんでした
アキレスは彼らを確実に攻撃し、打ち破り
皆町に閉じ込めました

672 エクトルは街に入る前に考えていました
自分は全く間違っていたと思いました
彼は心の中で言いました：《私は苦しんでいる
死んで埋められた方がましだ

673 主よもし運命で命じられているなら
私がアキレスの手で打ち負かされると
そうなればトロヤも堅固な城も私を守ってくれないでしょう

このようになると定められているのですから

- 674 私はこの事に断固として当たろう、他の事を決して信じまい
 人は決して臆病さで死を逃れてはいけない
 エクトルはその日が来るまでアキレスによって死にはしないだろ
 う
 パリスは恐れによって騎士道を裏切った者だ
- 675 人は死ななければならぬと知った時
 —すべてがどのように成就するか書に書かれている—
 死の恐怖によって決して逃げてはいけない
 なぜならそれは不名誉な事で、取り返しがつかないから
- 676 このように逃げれば私たちは彼により大きな名誉を与えることになる
 私たちが皆彼の手にかかって死ぬよりも
 私たちが戦場で打ち負かすか死ぬかした方がましだ
 私たちの不面目で大恥をかくよりは
- 677 多分運良く神が好都合なことをしてくれるかも知れない
 私たちに勝利を与え彼を打ち砕いてくれるかも知れない
 神は疑いを持つものを決して守ってくれない
 私に神が良いと思うことをしてくれますように
- 678 エクトルはこう考えて恐れなくなり
 自分のしたことを苦々しく思いました

聖なる父である神に魂を預け

アキレスに向かって行きました、幾分勇気づけられて

679 パラスはいつも励んでいました―他の事は決してしませんでした―

エクトルを殺させようと、しかし達成できませんでした

なぜならトロヤは彼に頼っていると思っていたからでした

そうでなければ、皆計略にかかっていたらうと

680 呪われた女神パラスはとんでもないいたづらを思いつきました
パリスと同じ姿形になったのです

彼と同じ武器を持ち、同じ馬に乗って

猛スピードでエクトルに向かって行きました

681 エクトルは兄弟のパリスだと思い

大喜びで手に槍を持ちました

彼はアキレスに対してうまい手を使おうと思いました

しかし今までこんなに無駄に馬にまたがったことはありませんで
した

682 彼は馬の勢いでアキレスを攻撃しようとしてしました

もしそうしたらたやすく彼を殺せると思いました

アキレスは毅然として、恐れずに彼を待ち受けました

雄鶏に突かれるほどにしか感じませんでした

683 エクトルは別の側からパリスがすぐに攻撃して

人々が早急にアキレスを退却させるだろうと思いました
しかし目を凝らしましたが彼は見えず、騙されたと思いました
心が碎かれ、途方に暮れて立ち止まりました

684 エクトルは自分の人生は終わった
運命の歯車が狂ったと思いました
彼は槍も盾も役に立たない
神が望まない時は、すべてが役に立たないと知りました

685 彼は神に向かって目を上げて心をふり絞り
はらはらと涙を流しながら祈りました
《主よ、一と彼は言いました一、あなたはあらゆる事を知っています
このような苦境において私を見捨てないでください

686 しかしもしこの決定があなたによって確かなものとされるなら
今回はエクトルは逃げおおせないという決定が
主よ、不運なトロヤのことを考えてください
私によってだとしても、あなたによって見捨てられないように

687 私はよく知っています、アキレスがその武勲によってしても
武術によっても騎士道によっても私を負かすことはできないだろうと
しかしあなたが日時を定めたので
あなたのすることに対して私は逆らえないでしょう

- 688 彼の全努力によっても、全頭脳によっても
今私に対してそんなに幸運ではいられないでしょう
しかしあなたは主であり、影響力があります
あなたの力は私を圧倒し捕らえました》
- 689 アキレスは、そうこうするうち、自分がなんで来たのか考えまし
た
隣人のパトロクロがどのように死んだのか思い出して
皮と松の木で出来た槍を構えました
このようにワインのグラスにでも向かうように、彼に向かって行
きました
- 690 エクトルは助からないと思いましたが
彼の偉大な心は萎えることを知りませんでした
アキレスが来るのを見ると、道に出て行きました
どちらがより打撃を受けたか言い表すことはできなかったでし
う
- 691 各々向き合って攻撃を交わし
お互い懲らしめられ、分かれました
両者とも決然として懸命でしたが
共に激しく消耗していました
- 692 戦う喜びでエクトルは
迎えることになる死を思ってみませんでした
決然として戦功を求めています

あたかもアキレスを殺せると確信しているようでした

- 693 それでアキレスは非常に驚いていました
死すべき存在である人間がそこまで勇敢であるとは
アキレスは心の中で言いました：《この男は悪魔だ、
破れる前に大損害を及すだろう》
- 694 エクトルは言いました：《さあ、我々の番が来た
アキレスを襲おう、彼に同情は不要だ
もし彼が私を攻撃すれば、彼が名誉を失うことになる
皆私が弱い心を持っていると思っているだろう》
- 695 エクトルはまだ良く事を考えてませんでした
アキレスに対して突っ込んで行き
その間中たっぷりとお返しをしました
しかし一方の悪魔はそれを何とも思いませんでした
- 696 アキレスはさらに熱くなって行き
パラスが少しづつ彼を力づけて行きました
怒りで彼の鼻が膨らんで行き
言いました：《私たちは遊んでいる若者のようだ
- 697 私たちは遊びにここへ来たようなものだ
運任せのゲームをする者のように行ったり来たりして
しかし私の考えではこうあってはならない
私がこの猫をどうやって焼くのか彼に見せてやろう》

- 698 アキレスはこのようにエクトルに向かって行きました、軍旗をな
びかせて
そして火を噴く雷のように
エクトルは少し右に体をそらし
怒りにもえてやって来るギリシャ人アキレスをかわしました
- 699 アキレスはこの失敗で、自分が辱められたと思いました
不運に見舞われたと思い、ひどく怒り
大声で言いました：《悪魔が嘆かんことを
今日エクトルはこの合戦を誇れないだろう
- 700 私は彼の策略をすべてよく知っているし、良く理解している
ただ日を過ごすためだけに術略をめぐらす
しかし私にとってはまったく馬鹿げた事だ
そうでなければ、今日は決して仲間のところに帰らないだろう》
- 701 アキレスは怒って槍をてにもって振り向き
馬を、軽快であつたけれども、急がせました
すぐにトロヤ人エクトルは彼に顔を向けて
わずかでも彼に利点を与えませんでした
- 702 アキレスは攻撃をかけ、彼に深傷を負わせました
盾から四枚の板を剥ぎ取り
鎧の四つの鎖かたびらを壊しました
しかしエクトルも手を休めませんでした

- 703 攻撃はすごいもので、大音響が響き渡りました
風が吹き荒れている時のような
雲を蹴散らし、雷鳴を轟かせ
馬も何もひどい興奮状態でした
- 704 戦いはひどく厳しく、辛いものでした
両者とも戦闘に疲れ、うんざりしていました
どちらかが降伏させたり負傷させたりできたでしょう
しかしどんな人もエクトルを制御できなかったでしょう
- 705 子供も老人も至る所で捧げていました
ろうそくと施し物、祈りと願いを
トロヤ人たちはエクトルに、ギリシャ人たちはアキレスに
敗れた者は生涯盲目になることが分かっていました
- 706 エクトルに時が近づいてくると
心が萎えて、腕が重くなっていき
力を失い、攻撃が減っていききました
もう一人は、悪いことに、それに気付いていききました
- 707 アキレスはエクトルがいかに気落ちしていたかが分かり
心の中で言いました：《これで決まりだ》
アキレスは大声で叫びました：《種牛さん、
今日はお前が馴らされたのを見る日になるだろう》
- 708 勇者アキレスは鎧にしっかり身を据えて

用意が整っていた槍を投げました
エクトルは、道を封鎖してあったので、
武器が役にたちませんでした、三本の葦のように

709 盾も鎧も全然役に立ちませんでした
アキレスはエクトルの内臓の真ん中に剣を突き刺すと
反対側から先端がかなり飛び出しました
あの気高いヒゲのエクトルは倒れました

710 トロヤの男たちはこれを見ると
皆その場で気を失って倒れました
ギリシャ人たちは喜んで皆手を叩き
皆一斉に「神に感謝」と言いました

711 トロヤの厚い城壁であるエクトルは無残に取り壊されていました
取り壊したアキレスは非常に満足していました
槍を高櫓に放って
なぜなら自分の仕事を立派に果たしたのですから

712 アキレスはこの喜びに満足して
エクトルが生きているのか死んでいるのに行き
魂が去ってしまい、体が死んでいるのを見ました
盾に腕を通して、首筋がねじれて

713 アキレスは遺恨から非常に残酷なことをしました
—怒りの仕返しをするために、慈悲を忘れたのです—

エクトルの親族がすべて見ている前で
彼を三度町の周りを引きずり回しました

- 714 これでもアキレスは満足しませんでした
パトロクロが埋められている所に彼を引いていきました
アキレスはすべてのギリシャ人に大変な喝采を受けました
というのは彼らは戦いがすでに終わったことを知っていたからです
- 715 ある者は武器で的の板を壊していました
他の者はチェスやサイコロをして遊んでいました
また他の者は色々なゲームに興じ
過去の苦しみはまったく気に留めていませんでした
- 716 悪い時に生まれた不運なプリアモ⁵⁴⁾は
弱って、まったく意識を失って倒れていました
髭はほこりにまみれ、顔は傷だらけでした
その罪人は不幸者の^{てい}体で横たわっていました
- 717 アンドロナ⁵⁵⁾は決して意識を回復しませんでした
あんなに優しく、あんなに愛している息子のことも思い出せ
ませんでした
私はこの話はあなたたちに省略したい：エクトルが倒れた時に
トロヤの良き民はすぐに打ち破られました
- 718 人々はパリスを呪いました、そして彼の生まれた日を

そしてエレナを生んだ胎を呪いました
彼女が吸った乳房と乳を呪いました
彼らを憎ませたビーナスを呪いました

- 719 エクトルは、友たちよ、君たちが聞いたように死にました
世にこれ以上完璧な貴人が死んだことはありません
彼は朽ちても、その価値は朽ちることはありません
人間がいる限り、忘れられたりしません

- 720 トロヤの戦いは大変なものでした
人々がしっかり配置された頑丈で高い城壁
ギリシャ人たちがそれを破ったと思っても
入城することはできませんでした

- 721 ギリシャ人たちはこれほど苦勞したことはありませんでした
どうしても入ることができなかったからです
彼らは非常に心配し、ひどく苦しみました
恥でないならば、もう退却したいと思っていました

- 722 パリスはエクトルの復讐をしようと必死でした
しかしそれを果たすことも、準備することもできませんでした
しかしついに策略を見つけました
—善はできない悪魔がそれを彼に示したのです—

- 723 もし前に話しことを覚えているなら、もうその事はお話ししました

アキレスの体は魔法にかけられたので
剣に貫かれはしないと確信していました
それで非常に勇敢にエクトルに向かって行ったのです

- 724 あいにく運命は望みませんでした
アキレスの足の裏が魔法にかけられることを
パリスは何度もこの知らせを聞いていました
しかし非常に混乱していて忘れていました
- 725 パリスはどうしても彼を殺せないと思いました
その場所で幸運によらなければ
彼が跪いて祈っている時に、彼を無き者にしようとして
矢を放つと、それでアキレスは死ぬことになりました

- 726 思いもよらない大きな悲しみがギリシャ人たちを襲いました
彼らは翼が傷つき落ちて行きました
多くの者がパリスは正しい事をしたのだと言いました
そして生涯彼はこんな素晴らしい事はしませんでした

- 727 ギリシャ人たちはまったく途方に暮れて
トロヤを征服することに絶望していました
喜びがすべて悲しみになりました
人々はトロヤ人たちは十分に復讐を果たしたと言っていました

- 728 老人ネストルは彼らに素晴らしい話をしました
それでギリシャでは人は常に彼の名を祈りで唱えました

わずかな言葉しか言いませんでした、非常に道理のあるものでした

このような良い機会に彼らに助言をしたことはありませんでした

- 729 《皆さん—とネストルは言いました—、あなたたちは記憶違いをしている

予言を忘れているようだ

十年のうちまだ九年が過ぎていない

そしてあなたたちは早々と絶望している

- 730 私たちに運があっても、私たちはそれを軽視している

最大の苦しみには私たちはもう耐えた

あと一年の間、弱さを見せないようにしよう

そうしなければ、私たちは生きている間、ずっと後悔することになるだろう

- 731 私たちは海で泳いでる人に似ていると彼らは言うだろう

結局容易な場所で溺れてしまう

事はまだ始めない方が良い

それを恥ずかしいことに最後に止めるよりは

- 732 もし私たちが一人を失えば、彼らは他の者たちを失った

彼らはこの交換で得るものはなかった

もし私たちに害を及ぼせば、彼らにはもっとひどい事になった

もし私たちが退却すれば、彼らは私たちを打ち破ったと言うだろう

- 733 こういう事を疑えば運命を嘆かせるだろう
もし運命を疑えば、ひどい過ちを犯すことになる
私はあなたたちに私たちはトロヤを手に入れると確言する
ただカルカス⁵⁶⁾の定める期限まで待ちさえすれば
- 734 神はわずかな時間で大きな恵みをくださる
思わぬ時に駆けつけてくださるだろう
皆さん、持つべき信仰のゆえに決然といてください
神はあなたたちが辛抱しさえすれば恵みをくださるだろう》
- 735 ネストルの助言に皆満足しました
人々は良い助言を得たことに疑いを持ちませんでした
皆、子供も大人も喜びました
運命が定めた期間待つことに
- 736 ついにその十年が経とうとしていました
ギリシャ人たちはトロヤを占領することも放置することもできま
せんでした
創造主が望んだ時、助けを出しました
策略家オデュッセウスが奸計を思いついたのです
- 737 彼は非常に丈夫な木で馬を作ることを考えつきました
その中に五百人の騎士が入れるような
そしててっぺんには塔を、中には貯蔵庫を
そしてその中に最良の兵士を詰め込むことを

- 738 彼はてっぺんに兵士を置くことを考えつきました
たった四日間だけ町を攻めるように
そうしているうちに下から騎士たちが入り
外から鍛冶屋たちが木馬の腹を閉じることを
- 739 彼はこの後打ち破られるまになることを思いつきました
天幕とすべての装備品を捨てて
そして全員可能なところを通して大急ぎで逃げて
トロヤの全視界から隠れることを
- 740 追跡したいと思いトロヤ人たちは散り々になるでしょう
老人たちも追跡するために素早く行動するでしょう
ギリシャ人たちを自分たちの手で血祭りにあげるために
トロヤにはまともな人間は誰もいなくなるでしょう
- 741 《私たちがちょっとだけ彼らを連れ出すことができれば
彼らは私たちに怒り、略奪しようとするだろう
彼らは馬を攻撃用の木の塔だと思い
気に留めず、放置するだろう
- 742 彼らがちょっとトロヤから離れると
中にいた者たちが馬から出て来て
小門が皆無防備なのを見るだろう
そしてトロヤ人たちが気付いた時には、町の中に入っているだろ
う

- 743 そのうち逃げた者たちが戻って来て
トロヤ人たちは町に逃げ込むだろう
中にいる我が兵士たちが彼らを追い返し
彼らはこれを見て、氣力と自信を失うだろう》
- 744 オデュッセウスがこの策略を思いつくと
非常に賢明な男ネストルにそれを話しました
彼らはそれが周到な方法で
神が彼らにその計略を示したのだと思いました
- 745 主だった長たちが相談し
指揮官たちは皆それを巧みな戦術と見ました
皆がネストルに信頼を示し
尻込みする者は不忠者と思われたことでしょう
- 746 それから選ばれ、記録されました
木馬の腹の中に入れられる者たちの名前が
最後にすべてにおいてまとまると
彼らは力なく出発するふりをしました
- 747 すぐに木材が持って来られ、細工がされました
装置が作られ、木馬の腹部が閉じられました
天辺の塔には大きな投石機が付いていて
それで罟を隠そうとしていました
- 748 彼らは容易に運べるようにそれを車輪の上に乗せました

そうしなければ人がそれを動かせなかったからです
オデュッセウスは動き回り奮闘しました
それを城壁のそばに据えるまで

- 749 トロヤ人たちは塔にとっても苦勞しました
その瓦がナイフのように切れたのです
彼らは心の中で言いました：《木馬に災いあれ、
叫んでも小門から動こうとしないのだから》
- 750 ギリシャ人たちは最初の日に大襲撃をかけました
次の日も少なからず、三日目はもっと大きな
四日目には各々もっと素早くなくなっていました
貯蔵庫がしっかり満たされていたので
- 751 ギリシャ人たちは少しずつトロヤ人たちを欺いていきました
逃げるふりをして、トロヤ人たちを町からひき離していきました
ギリシャ人たちは装備品を置いて、天幕を残していきました
トロヤ人たちは不幸にも猛々しくなって行きました
- 752 ギリシャ人たちは散らばって逃げ出しました
あたかも待つことも耐えることもできないかのように
トロヤ人たちは不幸にも死を覚悟して
彼らを追うのにすべてを忘れていました
- 753 ある者は奪うために、他の者は攻撃するために
トロヤ人たちは町から出ようとしていました

他方木馬の中にいる者たちは外に出ようと思い
戦うことなしにトロヤを征服することになりました

- 754 逃げていた者たちは、時が来るのを見るや
トロヤ人たちを激しく押し返し、踵を返しました
トロヤ人たちは走って町に戻りました
しかし入ることは容易ではありませんでした
- 755 外にいるギリシャ人たちは後方からそして脇から彼らに迫り
奪われた物を取り返していきました
ギリシャ人たちが門のところに達した時、悪い知らせを聞きまし
た
木馬がライオンを早産したと
- 756 望まれない客が宿を仕切っていました
彼らは悪い商売をして小銭を稼いでいました
トロヤ人たちはは言いました：《誰がこんなひどい苦悩を見たこ
とがあるだろうか
私たちの物が皆消えてしまっている》
- 757 トロヤ人たちはすっかり騙されました
オデュッセウスの奸計によって破れたのです
ギリシャ人たちは町を奪取しました
彼らは予言が本当だったと認めました
- 758 女も男も皆一度に死にました

ギリシャ人たちは彼らの多くの裏切りを責めました
最後にギリシャ人たちが各所に火をつけると
大トロヤは灰と炭になりました

- 759 人々は信じられないような事を言っています
町は燃えるのに十年かかったと
エレナに何が起きたか私たちは知ることができません
ホメロスがそれを彼の本に書こうとしませんでした
- 760 すべて燃えて、ギリシャ人たちはそこから立ち去る前に
決して役に立たないように城壁を破壊しました
世が続く限りその事を聞く人が皆
ギリシャと戦う氣を決して起こさないように
- 761 しかし数が多かったので、すべて死んだわけではありませんでし
た
どうにかこうにか、多くの人がそこから逃げ
そこから逃げた人々がローマを建てました
—どこに行っても彼らは意地を持ち続けました—
- 762 アレクサンダー王が話を終えると
大きな贈り物をするよりギリシャ人たちを喜ばせました
筋が良く通っていたので皆喜んだのです
なぜなら名前をすべて覚えていたからです
- 763 説教師の常で

説教の終わりにその論拠を用意するのですが
王は幾つかの常ならぬ結論を持ち出しました
それで臣下皆の心を豊かにしました

- 764 《友たちよ、良き戦士たちが為した武勲は
各々それが誰であったのか、どんな名声を得たのか
非常な熱意でそれを本に書いた者たちは
それを書いたことによる幾らかの益を理解していた
- 765 昔の師たちは非常な分別があつて
自分たちの行いに思慮と節度があつた
それ故すべてを本に書いた
後の世の者たちを熱狂させるために
- 766 非常な苦難にあつたオデュッセウスと他の者たちが
もしそんなに苦しまなかったら、復讐できなかったろう
しかし彼らは決然として勇敢だったので
今日彼らが語り継がれるような事を為したのだ
- 767 大事を為し遂げようとするときにはいつも
どんな損失を被っても意欲を失うべきではない
決然とした人はすべてを克服できる
私たちはこの事に関して多くの例を見ることができる
- 768 私たちの祖先はただ一つの苦痛のために
暴行されるままになった悪い女のために

その侮辱を晴らすために、そして名声を得るために
君達が語るのを聞いたような苦難を被った

- 769 親類たち、そして友たちよ、もし名声が欲しいなら
ただ意思がしっかりしていると思ってもらえるように
—これは本当だろう、確信して良い—
君たちは決して失う事がないような名声を得るだろう
- 770 君たちが得る名声は非常に大きいので
この者たちが為したすべての事を君たちはとるに足りないと思う
だろう
君たちはギリシャを救い、世界を征服するだろう
君たちの後に来る者たちは君たちに永遠の命を願うことだろう
- 771 人は死を逃れることができないので
この世の富はすべて失うことになる
言動によって名声を得るのでなければ
生まれてこない方がましだろう》
- 772 《ご主人様—と皆が言いました—あなたは私たちを十分に励まし
てくれました
あなたの言ったことすべてに私たちはとても満足しています
私たちはあなたの命じることすべてをする準備ができています
この意図は決して変わることはないでしょう》
- 773 王は臣下たちが熱くなって

心が踊り、精神が燃えているのが分かると
天幕を畳ませ、兵を移動させることを命じました
灼熱の地にダリウス王を探しに行くために

- 774 あらゆる方面に騎兵隊が送られました
ある隊が戻ってくる時には、他の隊が出発していて
城や要塞で固めた町々を征服しました
阻止されるような抵抗はありませんでした
- 775 目に入ったものはすべて征服し
進軍すればするほど激しさを増していききました
しかしダリウス王を見つけることを非常に望んでいたので
征服はすべて全然価値のないものでした
- 776 評判は地を駆け巡り
ダリウス王の知るところとなりました
彼は身震いし始めました
しかし最後に言いました：《そんなことは信じられない》
- 777 ダリウスはずっと戦争から遠ざかっていました
長い平和で戦うことを忘れてしまっていました
というのは王になってから戦うことがなかったのです
もしそういう時に死んでいれば、非常に幸福だったでしょう
- 778 もしダリウスが富んでいて、力があったように
—臣下に関してであれ、富に関してであれ—

このように勤勉で、幸運であったなら
アレクサンダーはこんなに喜んでインドへは行くことはなかった
でしょう

- 779 気落ちしていると思われぬように
ダリウスは声高に脅し文句を並べ始めました
怒りもって全能の神に誓いました
アレクサンダーとその民を吊るしてやると
- 780 次のような調子の書状を書かせました
《創造主に等しい、王の中の王ダリウスは
新人戦士であるお前アレクサンダーに言う
もし引き返さなければ、不名誉を被ることになるだろう
- 781 お前は年端のいかない、知恵の足りない子供である
お前はとても狂っていて、不幸になるだろう
もしお前自身の道を行くなら、非常に賢明であろう
もし他の者に操られているなら、無分別である
- 782 早く花をつける木は
霜が痛めて成長させない
同じことがお前に起こるだろう
もしこの気違い沙汰にお前が固執しようとするなら
- 783 お前にぴったりの贈り物をしよう
身に巻く革紐と遊ぶためのマリ

そしてお金を入れておく袋を
幸運だと思うがよい、私からうまく逃れられるのだから

- 784 しかしお前が執念に固執しようとしても
優秀な臣下は誰もお前に手をかけることはないだろう
若い家来たちにお前を捕らえさせて吊るさせよう
盗みを働く悪いこそ泥のように
- 785 私はお前がどんなつもりでこんな争い起こすのか分からない
というのは私にはお前が持っているわら以上に黄金がある
武器も兵力も私の方が勝っている
小銭に対する金貨以上に》
- 786 書状がアレクサンダー王の前で読まれると
人々は悲嘆に暮れ、ひどく驚きました
恐怖で顎が震えるところでした
彼らは皆ギリシャの自分の住まいに戻ることを望みました
- 787 アレクサンダーはすぐに彼らの心情を理解し
彼らに言いました：《男たちよ、私の言うことを聞いてほしい
覚えているなら、何度もお前たちに言ったはずだ
“よく吠える犬を恐れるな” と
- 788 ダリウスが言った一つのことはお前たちは信じるべきだ
彼は豊かな地を持っており、あり余る莫大な財産ある
なぜなら貯め込むこと以外の事は決してしなかったから

なぜなら決してこのような事態を考えて見なかったから

- 789 お前たちはこの事でずっともっと喜ぶべきだ
このような事を達成しようとしている人間として
なぜなら運命がお前たちにそれをすべて与えようとしているのだ
から
だだお前たちが少し辛抱しようとするば
- 790 決まっている事であるが私たちはこれをすべて成し遂げるだろう
お前たちが横になっていては神は私たちに与えてくれないだろう
頑張れ、貴人たちよ、ダリウスに答えてやろう
彼が言った事すべてにおいて自分自身を侮辱しているのだから
- 791 彼は多くの兵力をもっている、自分で言うより多くの
しかしすべて雌鶏で卑しい出の者たちだ
我々に首をもたげるには非常な大胆さが必要だろう
ウズラがオオタカに立ち向かうような
- 792 一匹のスズメバチはより強力な毒を持つ
ハエの大群よりも
彼らはお前たちに対して非常な勇気と力を持つだろう
とても腹を空かした狼に対する子やぎのような》
- 793 《ご主人様—と皆が言いました—、すべてにおいてあなたを信じ
ます
これから先決してもう恐れません

あなたが生きていだけで、私たちは裕福であると思えます
ダリウス王のこけおどしは少しも気に留めません》

- 794 王はすぐに使者たちを捕え
各々の丘に吊るすように命じました
《ご主人様—と皆が言いました—、それは正しくない事だと思
います
なぜなら使者たちは決して害を受けるべきではないからです》

- 795 王は言いました：《それが道理であるのはよく分かる
しかし彼らの主人が私を盗人と言ったのだから
私はその言葉をそのような人間にふさわしく敬意を表したい
盗人がなにをしようが彼には裏切りとなるまい》

- 796 《ご主人様—と彼らは言いました—、もしダリウス王が間違っ
たとしても
不思議ではありませんでした、あなたを知らなかったのですから
しかしもしあなたが命令すれば、名誉となるでしょう
ふさわしくない者が害を受けるべきではないと

- 797 王は使者たちに安全を保証し、解放するよう命じました
そして彼らに持ち帰れるだけ自分の財産を与えました
彼らは助けてくれた神に感謝し言いました：《アレクサンダー王
よ、神があなたを永らえさせてくださいますように》

- 798 それから王は次のように書かれた書状を作ることを命じました

《アモン神⁵⁷⁾の子であるアレクサンダー王は
あなた、ダリウス王に次のようなお返事を送ります
あなたはそれを好むと好まざるとに関わらず見るべきです

- 799 あなたすべての言葉に答えたいと思います
あなたは非常な冒瀆の言葉を吐きました、それはあなたを害する
でしょう
高みに登ろうとしたルシフェル⁵⁸⁾に起こったことがあなたにも
起こるでしょう
神は彼を見放し、滅びることになりました
- 800 あなたが私にくれた贈り物を説明したいと思います
私が狂っていると思うでしょうが、私にはよくわかります
袋はあなたのすべての資産を意味します
それはすべていつか私の手に入ります
- 801 丸いマリは全世界を表しています
それは私の物だと知ってください、これは確実なことです
私は革紐から硬い鞭を作るでしょう
それであなたの全血筋から正義を取り戻すでしょう
- 802 書状が作成されると
それは前記のような言葉でそしてさらに厳しい言葉で書か
れていましたが
ロウで閉じられ封印され
ペルシャのダリウス王に送られました

注

- 48) トロヤ側の伝令
- 49) トロヤと同盟関係にあったギリシャのトラキアの英雄、その白馬で有名
- 50) アレクサンダー大王の愛馬、またまた時代が合わない
- 51) ここでも時代が全然合わない
- 52) エクトルはパトロクロをアキレスだと思っている
- 53) torre de Babel（バベルの塔）のこと
- 54) トロヤ最後の王
- 55) エクトルの妻
- 56) 神話に出てくる占い師、予言者
- 57) ギリシャのゼウスと同一視されるエジプトの神
- 58) Satán と同一視される墮落天使

参考図書・辞書

- Libro de Alexandre Real Academia Española Madrid 2014
- Libro de Alexandre Nueva Biblioteca de Erudición y Crítica
Editorial Castalia Madrid 2007
- Libro de Alejandro Editorial Castalia Madrid 1985
- Book of Alexander Peter Such and Richard Rabone Oxbow Books Oxford 2009
- Vocabulario de Libro de Alexandre Anejos del Boletín de la Real Academia Española Madrid
1976
- アレクサンドロスの書・アポロニオの書 橋本一郎 大学書林 1991
- Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986
- Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfonsópolis 2002
- Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A. Kasten and Florian The Hispanic Seminary of
Medieval Studies New York 2001
- Larousse Universal diccionario enciclopédico Librairie Larousse Paris 1968